

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

憲法活かし、平和を築く

辺野古支援を通じ実状知る

看護師の飯尾麻実さんと理学療法士の染野敏弘さんが、全日本民医連(以下、民医連)が主催する第29次辺野古支援・連帯行動(4月11日〜13日)に参加してきました。

参加者56人(北は青森から南は沖縄まで)は、アプチャガマ、ひめゆり戦跡平和祈念資料館、嘉手納基地、普天間基地をめぐる、小雨湿じりのなか辺野古での座り込みに加わりました。

行動を通じ沖縄の現実を肌で感じることで、参加者のなかに自分たちができることについて考え・実践しようという気持ちが芽生えたのでした。

「①現地で、基地建設反対運動をしている方たちへの激励・支援・連帯
②自然保護の大切さの体感
③青年職員による平和問題への取り組みの一端」

「陸も空もアメリカに取られてしまった。子や孫の世代に渡せるのはもう海しかないんじゃない。辺野古には基地をつくらせんと、オジイやオバアは静かに語ります。現在、日本の国土の0・6%しかない沖縄に、米軍専用基地のうち74%も集中しています。太平洋戦争の沖縄戦(1945年3月から約5カ月)では約20数万人(一般住民は約10万人)が命を落とし、その後も米軍による事故、米兵による強姦や交通事故などの犯罪が多発し沖縄県民に恐怖を与えています。沖縄では米軍への憤りの気持ち、終戦から半世紀をはるかに超えても炎々と燃え続けているのです。」

「さらに民医連は、日米両政府が辺野古沿岸への基地建設を断念するまで、この支援・連帯行動を継続してまいります。」



辺野古で座り込みに参加

「半世紀を超える憤り」

「陸も空もアメリカに取られてしまった。子や孫の世代に渡せるのはもう海しかないんじゃない。辺野古には基地をつくらせんと、オジイやオバアは静かに語ります。現在、日本の国土の0・6%しかない沖縄に、米軍専用基地のうち74%も集中しています。太平洋戦争の沖縄戦(1945年3月から約5カ月)では約20数万人(一般住民は約10万人)が命を落とし、その後も米軍による事故、米兵による強姦や交通事故などの犯罪が多発し沖縄県民に恐怖を与えています。沖縄では米軍への憤りの気持ち、終戦から半世紀をはるかに超えても炎々と燃え続けているのです。」

「陸も空もアメリカに取られてしまった。子や孫の世代に渡せるのはもう海しかないんじゃない。辺野古には基地をつくらせんと、オジイやオバアは静かに語ります。現在、日本の国土の0・6%しかない沖縄に、米軍専用基地のうち74%も集中しています。太平洋戦争の沖縄戦(1945年3月から約5カ月)では約20数万人(一般住民は約10万人)が命を落とし、その後も米軍による事故、米兵による強姦や交通事故などの犯罪が多発し沖縄県民に恐怖を与えています。沖縄では米軍への憤りの気持ち、終戦から半世紀をはるかに超えても炎々と燃え続けているのです。」

看護師・飯尾麻実 (3階病棟)



向かって左・飯尾さん、右・染野さん 背後は嘉手納基地

「今までは、オスプレイや基地についてニュースで見ても、沖縄ばかり大変だなどしか思っていない自分がいました。しかし、実際に沖縄で」

沖縄に行ってみて感じたこと

参加者のコメント

「沖縄の自然の美しさ、起きている現状をまわりの人達に伝えていき、少しずつでも支援の輪を広げられたらと思います。」

「基地の見学や座り込み活動をして、自然、安全、平和を沖縄の人たちだけの問題にしてはいけないと思いました。小さな事かもしれませんが」

「このことは祖国に復帰し、憲法に期待をしてきた沖縄の人たちの気持ちを土足で踏みにじるものです。米軍基地は沖縄だけでなく厚木、三沢、佐世保など日本各地にあり、米軍・米兵による事故や事件が起きています。在日米軍は日本全体の問題です。」

「政府への抗議行動という、強行的という印象を受けるかもしれませんが、行動はあくまで非暴力です。様々な事情を抱え基地建設にかかわらざるを得ない住民や、リゾート地での勤務などといううたい文句で連れてこられたアメリカ軍兵士にも、気遣いを忘れないで話し合いを求めようとする姿がとても印象的でした。」



奥に見えるのが普天間基地。矢印の建物は「保育園」

「1952年4月28日、サンフランシスコ条約により沖縄は日本から切り離されました。以来、県民は日本へ復帰し「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」をかかげる日本国憲法の下で、米軍基地から解放された暮らしを願っていました。しかし1972年5月15日に日本へ復帰しましたが、復旧前同様に米軍基地は依然として存在し続けたのです。自民党・安倍首相は4月28日を、サンフランシスコ条約の発効により日本の主権が回復した「主権回復の日」として記念式典を開催し、改憲の足がかりにしようとしています。」

「憲法第9条には「戦力の不保持」と「交戦権を認めない」規定があります。米軍のいない日本を築くために、憲法の理念を広め活かしていくことが大切ではないでしょうか。」

千駄の萱

3週間ぶりの雨が日比谷の森を濡らす五月、野音で連続22回目の南こうせつコンサートに行った。雨男で有名だから雨天決行。ファンも心得て屋根があるうちに身支度をと地下鉄駅改札の外は華やかな色の雨具でにぎわっている▼日頃の疲れや悩みを忘れて明日からまた元気になれるように…いつもの挨拶で開演。雨がテンションを上げていく▼ゲストが何組か出演するが当日までわからないのが楽しみだ。過去に加山雄三や海援隊・夏川りみ・イルカなどが出演。昨年は小林旭に沸いた▼さて今年。「次のゲスト、こんな大物はいません」の声に「若大将やマイトガイより大物？」とわくわくしていたら現れたのは安倍首相。七人の男が舞台の上で首相を取り巻くように不動の姿勢で並ぶ。「合唱隊ではないんですね、SPのみなさんお疲れ様です」と拍手するも表情一つ変えず。公務中ゆえか▼首相は「女房から絶対にお歌うと言われたが、こは度胸で」とにこやかに歌いだした。観客も拍手を合わせて大合唱：▼こうせつがゲオグループフルストと同じ役割にならないことを願っている。(み)